

令和6年度 第3回 中野市子ども・子育て会議 議事録

日時	令和6年12月23日(月) 16:00~17:30
会場	中野市市民会館(ソソラホール) 小ホール
出席者 (委員)	竹内美聡、阿部亜紀子、川口朋子、小林由惟、上倉真希、 大西清美、角間史康、川橋陽子、徳竹佐織、片所年子、池田敦、西澤 亜理沙、村石英理子(計13名)
(市:事務局)	小林子ども部長、戸田子育て課長、鈴木保育課長、小林子ども支援係 長、田中青少年未来係長、小高子ども相談係長、江本施設係長、山田 保育係長、子ども・子育て支援事業計画策定支援受託者カシヨ株式会 社3名(計11名)
資料	次第 資料1:第3期中野市子ども・子育て支援事業計画策定素案について
1 開会 (子育て課長)	(略)
2 あいさつ (子ども部長)	(略)
(子育て課長)	それでは、3の議事に入ります。 中野市子ども・子育て会議条例第5条の規定によりまして、会議の 議長は会長にお願いしたいと存じます。
(会長)	
3 議事	
(1) 第3期中野市 子ども・子育て支援事 業計画策定 素案につ いて	はじめに、協議事項(1)第3期中野市子ども・子育て支援事業計画 策定 素案について。 事務局から説明をお願いします。

<p>(事務局) 子ども支援係長</p>	<p>資料1に基づき説明</p>
<p>(会長)</p>	<p>ただいま、事務局から説明がありましたが、ご意見ご質問等ございましたら、挙手にてお願いします。</p>
<p>(委員)</p>	<p>こども誰でも通園制度は具体的どのような計画で行いますか。 子どもを預かるときに、受け入れ側の対応はどうなりますか。 一時預かりについて、もう少し充実させていただきたい。一時保育はすぐ預けられる訳ではない。ただ一時保育が充実すれば、誰でも通園事業は必要ないと思うのですが。 保育園の最低基準が74年ぶりに変わり、保育士に対し児童が30人から25人になった。 それでも、25人を一人で見るのは大変です。小学校は35人学級で、35人を超えると2クラスになる。でも保育園は違います。34人いても1クラスです。そういうクラスの分け方の違いもあります。 それに、最低基準の考え方も小数点です。人間を小数点と考えて決めます。このやり方で保育園が運営されているということに、私は非常に憤りを感じておりますので、ぜひ1つは豊かな中野市の子どもたちを育てるということでしたら、一番基本的には最低基準を市としてどうやって考えるか、非常に大きいウエートを占めていると思っております。ぜひ先陣を切って中野市が、お手本になっていくような政策を作っていくっていただきたいと思っています 計画の中で、豊かな中野市の子どもたちを育てる言葉が多いのですが、一番基本的には最低基準を市としてどう考えるか、 あと、ひとり親家庭で、仕事ができなくなり、生活に困って相談ができないでいる家庭もあります。子どもの貧困化、親の貧困化も含めて切実です、計画には子どもの安全とかいろいろ書いてありますが、ぜひ行政としても切実な家庭について考えていただきたい。</p>
<p>(保育課長)</p>	<p>誰でも通園制度につきましては、現在、須坂市で検証のため試行を行っており、今後の問題点ですとか、どのように運営をしていくか国の方でもまだ決まってない部分があり、そういった検証を重ねて、実施に向けて決まってくる部分があります。今後、途中途中で決まったところで、市の方にも情報提供ですとか、どのように運営したらいいか相談しながら、今後進めていきたいと思っております。 一時保育をもう少し充実していけばいいというお話をいただきましたが、前回の会議でもお話をさせていただいたのですが、誰でも通園</p>

	<p>の部分と、一時保育につきましては、同じように見えますが、それぞれ保護者の立場に立った制度と、誰でも通園は児童ご本人が、保育の場で生活できるようにというところで、考え方が違う事業ですので、それぞれのご家庭の事情に応じて、利用していただきたいと思いますのでよろしく願いいたします。</p>
(子育て課長)	<p>委員の質問の最後の方で相談できない、市、支援センター等に相談できない方がいるお話ですけれども、そういうお話がある事を私ども承っております、この計画でも、34 ページ、35 ページの方で、相談しやすい体制仕組みの整備ということで、各種、計画で、5 年計画の期間に、何ができるか具体的に検討していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
(保育課長)	<p>あと、誰でも通園制度につきまして、36 ページにございますが、事業として、この5年間で行っていくことをお示ししています。</p> <p>54 ページに量の見込みの中で、8 年度以降、数字記載してございます。この8 年度以降、具体的な国の制度もありますので、これまでにお示ししていけるもとと考えています。現在の計画でございますので、ご理解いただければと思います。</p> <p>最低基準につきまして、25 人に保育士1 人というところですが、基準というものは当然定めなければいけない。市としても、国の基準 25 人というところでは考えていますが、同じ 25 人でも、数字だけでなく、年度、クラスによって、その25 人で対応できるできないところはあると思います。状況に応じて考えていきたいと思っております。</p> <p>大前提の基準として 25 人という国の基準が定めている、市としても、同じように考えているところでございます。</p>
(委員)	<p>第4 章、32 ページから 46 ページ重点施策が1 つその中から抜粋されている形で、ピックアップしていますが、この前の重点施策を、その基本施策のところでも1 つピックアップしているのは、どういう意図があるのか。この重点施策で、基本施策の1 だったら1 を諮っているのか、どういう考え方なのか、お願いします。</p>
(子育て課長)	<p>6 つの基本目標の項目の中で、どれが一番メインに据えているか挙げさせていただいています。</p>

(委員)

29 ページ、第 3 章、この計画の基本的な計画の成果目標の指針で、第 2 期の計画ではなく第 3 期に新しい事業を入れ、指標 1・2・3 について、施策の上位概念として、格付けられている指標と感じられます。

指標 1 は、今回いろいろお考えになられて、「つらい・不安と感ずることの方が多い」、指標 3 は、前回特殊出生率でしたが、年間の出生数に変えられています。

指標 2 が前回も思いましたが、育児休業取得割合が果たして施策の上位概念の指標として据え置くレベルのものなのかと感じます。子どもをどまん中になのに、なんとなく大人目線、保護者目線の指標が多い。子どもの声の部分を指標 2 か 3 に 1 つ置いた方がいいのではないのでしょうか。

そして、男性育児休業取得割合、39 ページですか。基本施策 13 の重点施策から落としてもいいのではないかと思います。

この計画の基本目標の 6 つの柱、これが達成してきていることをこの資料でいえるように、立て付けの考え方がより説明がしやすいし、今回 3 つ掲げた意味が出てくるのではないかなと感じています。

(子育て課長)

指標につきましては、基本的に指標 3 つ挙げてございますが市町村によっては、5 個であったり、書いてなかったりということもございます。中野市については、3 つということで挙げさせていただきました。

指標 1 につきましては、ご指摘の通りアンケートの中からの声が、非常に多かったので、子育てが「つらい・不安と感ずることの方が多い」と感ずる、こういうことのない社会を作っていきたいということで載せさせていただいています。

年間出生数につきましては、合計特殊出生率を前回記載していましたが、具体的な出生数書いた方がわかりやすいのではないかとということで、改めさせていただきました。目標も 210 人にしてございます。

本来上げなければいけない数字ですが、近年、出生数は大きく減少しておりますので現状維持という思いから、出生数という数字にさせていただきます。

また、ご指摘の指標 2 ですけれども、これにつきましては、確かに我々担当も議論したところですが、子どもの意見募集とか、今委員さんがおっしゃられた数字の方が、今回の計画には当てはまる気がいたしますので、また、今日、意見を出していなくても、意見をいただけるように用紙をお配りさせていただいています。ご提案をいただければ大変ありがたいと考えてございますので、よろしく願います。

<p>(委員)</p>	<p>1つは、子育てがづらい・不安と覚るごごの方が多いと覚る保護者の割合について、令和11年度にゼロになるのでしょうか。</p> <p>それからもう1つ、男性の育児休業ですが、1週間、3ヶ月と男性が育児休業取りました。その後、育児休業明けから、朝から晩まで働いて、仕事している。それでは、育児休業取った意味がないと思います。</p> <p>会社の労働条件、男性の働き方改革が一番大事だと思っています。環境を変えないと、女性は結局、会社を辞めてパートになってしまう。</p> <p>その状況をわかっていて男性育児休業を出したのか。今、男性の育児休業と言うけど、そのあと、24時間働きますでは全然意味がないと私は思っています。</p> <p>また、出生率の向上ですけど、結婚したら子どもを産んで出生率を上げる。それから、Iターンでこっちに来る人達を増やし、子ども向けの施策がある中で出生率が減ったから、対応しますっていう考え方も、何か違う感じがします。</p> <p>この3つの指標がどうやって出てきたのか。よくわかりません。</p> <p>もっと指標で、大事な事あると思っています。</p>
<p>(子育て課長)</p>	<p>ありがとうございます。それも含めて皆さんのご意見ちょうだいできればと思います。</p> <p>今日でなくても、先ほど申し上げた用紙にお書きいただいても結構です。</p> <p>今回ここに載せたのは、アンケート、出生率等につきまして、市の現状も踏まえたことから、クリアしたい課題ということでお載せしています。</p> <p>指標1の、これ0%無理じゃないか、というお話ですが、おそらく0%は無理だとは思いますが、あくまで目標ということで0%にさせていただきます。</p> <p>また育児休業を今回なぜ載せたかといいますのは、男性の育休取るには、社会、地域、企業ですとか、就業規則等も検討していただかなくてはいけないこともあります。</p> <p>また、今後子どもが増える施策につながればとお載せしています。</p> <p>ただ、今申し上げた通り、これも我々も苦慮したところですので、委員さんのご意見をちょうだいできればと思います。</p>
<p>(委員)</p>	<p>基本施策の重要性、重点施策は、この基本施策で重要とする項目で35ページの基本施策6の重点施策についてです。</p> <p>18ページの施策1のところの令和5年の目標値と実績値が書いて</p>

ありますが、ファミリー・サポート・センター事業の実績が目標 25 回に対し実績は 7 回、達成状況が C。

その下の子育て支援ショートステイ事業の目標 41 人、実績 229 人と増えています。

そこで C が出ているのに、今度の重点施策が子育て世帯訪問支援事業の実施ということで掲げているのですが、なぜ、その実績を見て、この重点施策がこれになったのか。子育てが辛いと言っているのであれば、ショートステイを使わざるをえない状況になったと感じます。

そこを、重点に置いたほうが良いと思いますし、基本施策の中で何を一番重点としてするか書かないと、この計画に合っていないと思います。なぜ、ファミリー・サポート・センター事業の実績状況が C になったのかを、どのように考えているのかお聞きしておきたい。

(子ども支援係長)

ファミリー・サポート・センター事業ですが、提供者と依頼者がありまして、依頼者が子どもの送り迎え等サポートをお願いし、提供会員に受けていただく事業です。確かにコロナの時に利用が落ちてしまい、令和 5 年度の実績も、7 回となりコロナの影響は十分あり、目標値より下がってしまいました。

今年度は徐々に利用が増え始めてはいます。

ショートステイは子育てに困っている方も利用しており利用数が増えています。

また、ショートステイとファミリー・サポートを何で重点施策にしないかですけど、今年度から子育て世代の訪問支援事業を実施しております。

この事業は、子どもに家事等の負担がかかっている家庭をなるべく救いたいと思い重点として挙げさせていただきました。

(会長)

よろしいですか。

また、何か皆さんからご意見がありましたら、事務局へお問い合わせいただき、意見の様式に書いて提案していただければと思います。

以上をもちまして、令和 6 年度 第 3 回 子ども・子育て会議を閉会といたします。

長時間にわたり、ありがとうございました。

(子育て課長)

会長さんありがとうございました。それでは、4 その他の (1) ですが、今後の会議日程等につきまして事務局からご説明申し上げます。

<p>(子育て支援係長)</p>	<p>それでは今後の予定ですが、第3回の計画素案ということでお示しさせていただきました。これから皆さんの意見をお聞きし、あと後、パブリックコメントを2月に出していきたいと思います。</p> <p>その後、3月に子ども子育て会議を開催し計画を決定とさせていただきたいと考えております。</p>
<p>(子育て課長)</p>	<p>次にその他ですが、事務局から特にございませませんが、全体を通して何かございますか。</p> <p>(特になし)</p> <p>それでは以上をもちまして令和6年度第3回中野市子ども・子育て会議を、閉会とさせていただきます。</p> <p>長時間ありがとうございました。</p>